

鹿児島県初記録のタチウオ科魚類カンムリダチ

畑 晴陵¹・三木涼平²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 889-0517 宮崎県延岡市赤水 376-6 宮崎大学農学部附属フィールド教育研究センター
延岡フィールド (水産実験所)³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

タチウオ科魚類 Trichiuridae は日本近海に 13 種が分布することが知られ (中坊・土居内, 2013), そのうち鹿児島県内からはナガユメタチモドキ *Assurger anzac* (Alexander, 1917), ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum* Gill, 1863, ヒレナガユメタチ *E. poeyi* Günter, 1887, ヒレナガオオメユメタチ *E. macrophthalmum* Chakraborty, Yoshino and Iwatsuki, 2006, タチウオ *Trichiurus japonicus* Temminck and Schlegel, 1844, オキナワオオタチ *Trichiurus* sp. 1 およびテンジクタチ *Trichiurus* sp. 2 の少なくとも 7 種が標本に基づき報告されている (中坊・土居内, 2013; 遠藤・片山, 2014; 畑ほか, 2015, 2016; Motomura, 2016; 畑, 2017; 小枝, 2018).

南九州における魚類相調査の過程で, 1 個体のカンムリダチ *Tentoriceps cristatus* (Klunzinger, 1884) が薩摩半島西岸に位置する笠沙沖から採集された. 同標本は本種の鹿児島県における標本に基づく初めての記録となるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は崎山ほか (2011) にしたがっ

Hata, H., R. Miki and H. Motomura. 2018. First record of *Tentoriceps cristatus* (Perciformes: Trichiuridae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 44: 303–306.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

Published online: 13 Apr. 2018

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-042.pdf

た. 標準体長は体長と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. 生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島県産標本 (KAUM-I. 300033) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り. FAKU – 京都大学; KAUM – 鹿児島大学総合研究博物館; SNFR – 西海区水産研究所.

■ 結果と考察

Tentoriceps cristatus (Klunzinger, 1884)

カンムリダチ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 300033, 全長 753.0 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦高崎山地先 (31°26'00"N, 130°10'05"E), 水深 36 m, 2017 年 5 月 17 日, 定置網, 三木涼平・緒方悠輝也.

記載 背鰭鰭条数 145; 胸鰭軟条数 11; 腹鰭棘数 1; 鰓耙数 5 + 12.

体各部測定値の全長に対する割合 (%): 臀鰭前長 36.0; 頭長 9.3; 吻長 3.3; 眼後長 4.4; 前鰓蓋骨長 1.0; 上顎長 4.4; 胸鰭基底における体高 4.5; 胸鰭基底における体幅 1.2; 肛門における体高 5.5; 肛門における体幅 1.3; 背鰭第 1 鰭条長 1.7; 背鰭前長 6.6; 背鰭基底長 85.3; 眼窩径 1.6; 眼下高 0.6; 眼隔域幅 1.0; 肛門における体高 (側線上方) 3.4; 肛門における体高 (側線下方) 2.2; 胸鰭前長 8.9; 胸鰭基底長 0.6.



Fig. 1. Lateral views of body (upper photo) and head (lower photo) of fresh specimen of *Tentoriceps cristatus* (KAUM-I. 300033, 753.0 mm total length, off Kasasa, west coast of Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan).

体は細長く、強く側扁し、リボン状を呈する。体背縁は下顎先端から背鰭起部にかけて急に上昇する。頭部背縁は丸みを帯び、わずかに前上方に張り出す。体背縁は背鰭基底部では直線状となるが、背鰭基底後部から尾部にかけて緩やかに下降する。体腹縁はほぼ直線状であるが、臀鰭基底後部から尾部にかけて緩やかに上昇する。背鰭起部は前鰓蓋骨後縁よりも前方、眼の後端よりも後方に位置する。背鰭背縁は起部から第10鰭条にかけて緩やかに上昇し、その後は体背縁とほぼ平行となり、第100鰭条付近から緩やかに下降する。胸鰭基底先端は背鰭5鰭条起部直上に位置し、基底後端は背鰭第6鰭条起部直下に位置する。胸鰭は短く、その上端は側線に達しない。胸鰭前縁は前方に膨らみ、後縁は直線状。胸鰭背縁は直線状を呈し、第1軟条後端から緩やかに下降する。腹鰭は背腹方向に著しく薄い鱗状を呈し、その後縁は滑らか。左右の腹鰭は互いに近接する。腹鰭起部は背鰭第10鰭条直下に位置する。臀鰭鰭条はほとんどが皮下に埋没しており、計数は不可能で

あったが、起部は背鰭第47鰭条直下に位置する。臀鰭第1鰭条は腹鰭と同様に著しく薄い円盤状を呈する。尾鰭はなく、尾部は糸状に伸長する。肛門は臀鰭起部前方に位置し、前後方向に長い楕円形。鰓蓋と前鰓蓋骨後縁はともに円滑。鰓蓋後縁はくぼまず、丸みを帯びる。前鰓蓋骨は皮下に埋没する。眼と瞳孔はともに正円形。鰓耙は短い針状で、先端は尖る。擬鰓を有する。鼻孔は1対で背腹方向に長い楕円形を呈し、眼の前方に位置する。吻端は著しく尖り、下顎は上顎よりも前方に突出する。口は端位で、口裂は大きく、上顎後端は瞳孔中央直下に達する。上顎前部の左側には倒すことのできない2本の牙状歯があり、これらは後方に緩やかに湾曲する。上顎側部、口蓋骨、および下顎側部には鋭い円錐歯が1列に並ぶ。鋤骨は無歯。側線は完全で、鰓蓋上部後方から尾鰭基底にかけてほぼ直走する。

色彩 生鮮時の色彩 一体は一様に銀白色。背鰭には黒色色素胞が密に存在し、一様に黒色を呈する。胸鰭は一様に透明を呈し、各軟条に黒色色

素胞が並ぶ。瞳孔は青みがかった黒色で、虹彩は金色。

分布 アフリカ東岸からタスマン海、南日本にかけてのインド・西太平洋に広く分布する (Senta, 1975; Nakamura and Parin, 1993, 2001; 中坊・土居内, 2013; Okamoto, 2017)。日本国内では相模湾から高知県以布利にかけての太平洋沿岸、東シナ海南部から記録されており (中坊・土居内, 2013)、山口県沿岸からのものと思われる記録もある (蒲原, 1940; 千田, 1976)。さらに、本研究により、鹿児島県薩摩半島西岸における分布も確認された。

備考 笠沙産の標本は尾鰭がなく、尾部が糸状に伸長すること、側線が胸鰭上方で下降しないこと、胸鰭が短く、その上端が側線に達しないこと、鰓蓋後縁はくぼまず、丸みを帯びること、鱗状の腹鰭をそなえ、背鰭第10軟条起部直下に位置すること、頭部背縁が丸みを帯び、前上方に張り出すことなどが Nakamura and Parin (1993, 2001) や中坊・土居内 (2013) の報告した *Tentoriceps cristatus* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。なお、カンムリダチは本種1種のみでカンムリダチ属 *Tentoriceps* を形成する (Nakamura and Parin, 1993, 2001)。

カンムリダチは鰓蓋後縁がくぼまず、丸みを帯びること、尾鰭がなく、尾部が糸状に伸長すること、側線が胸鰭上方で下降しないこと、胸鰭が短く、その上端が側線に達しないことなどにより、渤海、黄海、および東シナ海に分布するとされるオシロイダチ *Eupleurogrammus* sp. に類似するが (中坊・土居内, 2013)、頭部背縁が丸みを帯び前上方に張り出すこと (オシロイダチでは頭部背縁は直線状)、鱗状の腹鰭が背鰭第9-12軟条起部直下に位置する (第15-17軟条起部直下に位置すること) により、容易に識別される (Senta, 1975; 千田, 1976; Nakamura and Parin, 1993, 2001; 中坊・土居内, 2013)。しかし、これら2種はかつて混同されていたものと思われ、蒲原 (1940) は全長700-900 mm のタチウオ科魚類の標本の学名を *Trichiurus muticus*、和名をオシロイダチとして報告したが、この標本は頭部背縁が膨出することか

ら、カンムリダチであると思われる。彼の報告した標本の産地は明記されておらず、同標本は焼失している (千田, 1976)。しかし、蒲原 (1940) はオシロイダチの当時の日本国内における分布域を朝鮮半島西岸のほか、従来の文献にみられない山口県沖を加えており、千田 (1976) は蒲原 (1940) の報告が山口県産の標本に基づいておこなわれた可能性が高いとしている。また、岩井・堀田 (1950) は徳島県美波町日和佐沖から得られたタチウオ科魚類2個体 (全長863.5, 858.0 mm) の学名を *Trichiurus muticus*、和名をオシロイダチとして報告した。しかし、彼らのオシロイダチは図示されたものを見る限り、頭部背縁が丸みを帯び前上方に張り出すこと、鱗状の腹鰭が背鰭第11と第12軟条起部の間に位置することから、カンムリダチであると思われる。

Senta (1975) は南シナ海とアンダマン海から得られた21個体の *Tentoriceps cristatus* を詳細に報告すると同時に、本種に対して和名カンムリダチを提唱した。千田 (1976) はこれら2種を比較し、*Trichiurus muticus* と *Tentoriceps cristatus* に対する和名をそれぞれオシロイダチとカンムリダチにすべきであるとした。なお、脊椎骨数などが既知種と一致しないことから、近年では日本近海から得られるオシロイダチを未記載種 *Eupleurogrammus* sp. とする見解が多い (時村ほか, 1995; 山田ほか, 2007; 中坊・土居内, 2013)。その後、山田 (1991) は神奈川県三浦市三戸から得られた全長618 mm のカンムリダチ1個体を報告しており、これが本種の分布記録の北限と思われる。また、鳥居 (2001) は高知県土佐清水市以布利から得られた全長64.1-85.5 cm のカンムリダチ3個体 (FAKU 68619, 69617, 73462) を報告し、山田ほか (2007) は東シナ海南部から得られた本種3個体 (SNFR 159, 1096, 1097) を報告した。

したがって、これまで知られていた日本国内におけるカンムリダチの分布域は「分布」の項で記述したとおりであり、本研究の記載標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となる。カンムリダチの鹿児島県での採集記録は、これまでの国内における本種の分布の空白域を埋

めるものであり、本種が相模湾から東シナ海にかけて連続的に広く分布することを示唆する。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集に際しては伊東正英氏（鹿児島県南さつま市）、笠沙町漁業協同組合の関係者の皆さま、ならびに緒方悠輝也氏（宮崎大学）には多大なご協力を頂いた。原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作成・登録作業などを手伝って頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金（28-745, 29-737）、藤原ナチュラルヒストリー振興財団、宮崎大学平成29年度戦略重点経費、JSPS研究奨励費（DC2: 29-6652）、JSPS科 研 費（19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265）、JSPS研究拠点形成事業－Bアジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性プロジェクト）学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 遠藤広光・片山英里. 2014. P. 580. 本村浩之・松浦啓一(編). 奄美群島最南端の島と論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 国立科学博物館, つくば.
- 畑 晴陵. 2017. タチウオ科. Pp. 260–261. 岩坪洗樹・本村浩之(編). 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015. 鹿児島湾から得られたタチウオ科魚類ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum*. Nature of Kagoshima, 41: 157–16.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016. 鹿児島県から得られたタチウオ科魚類ヒレナガユメタチ *Evoxymetopon poeyi*. Nature of Kagoshima, 42: 321–325.
- 岩井 保・堀田秀之. 1950. 本邦太平洋岸産未記録魚オシロイダチに就いて. 徳島県水産試験場事業報告, 1950: 23–26.
- 蒲原稔治. 1940. 日本動物分類, 第15巻, 第2巻, 第5号. 魚綱・真口亜綱・硬骨魚目・棘鱗亜目・鱸型族・鯖群(鱈型類ヲ除ク). 三省堂, 東京. vii + 225 pp.
- 小枝圭太. 2018. タチウオ科. Pp. 423–425. 小枝圭太・畑晴陵・山田守彦・本村浩之(編). 黒潮あたる鹿児島湾の海内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. 2016. The ichthyofauna of Yoron-jima Island in the southern extremity of the Amami Islands, Japan, including comparisons with similar nearby regions. Pp. 71–78 in Kawai, K., Terada, R. and Kuwamura, S. (eds.) The Amami Islands: Culture, Society, Industry and Nature. Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. タチウオ科. Pp. 1644–1647, 2221–2224. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakamura, I. and Parin, N. 1993. FAO species catalogue. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). FAO Fisheries Synopsis, 125 (15): i–viii + 1–136.
- Nakamura, I. and Parin, N. Trichiuridae, cutlassfishes. Pp. 3709–3719 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals. FAO, Rome.
- Okamoto, M. 2017. *Tentoriceps cristatus* (Klunzinger 1884). P. 210. Moromura, H., Alama, U. B., Muto, N., Babaran, R. P. and Ishikawa, S. (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 崎山直夫・瀬能 宏・御宿昭彦・神応義夫・伊藤寿茂. 2011. 相模湾初記録のナルトビエイ・ヒメイトマキエイ(エイ目トビエイ科), および稀種ユメタチモドキ(スズキ目タチウオ科)の同湾からの確実な記録について. 神奈川県自然誌資料, 32: 101–108.
- 千田哲資. 1976. “オシロイダチ *Trichiurus muticus*”として日本より報告された魚の種名および和名について. 魚類学雑誌, 23 (2): 109–113.
- Senta, T. 1975. Redescription of trichiurid fish *Tentoriceps cristatus* and its occurrence in the South China Sea and the Straits of Malacca. Japanese Journal of Ichthyology, 21 (4): 175–182.
- 時村宗春・山田梅芳・入江隆彦. 1995. 東・黄海及び隣接海域のタチウオ類の種と分布についての見解. 西海区水産研究所ニュース, 80: 12–14.
- 鳥居高志. 2001. カンムリダチ. P. 257. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編). 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.
- 山田和彦. 2011. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類 II. 神奈川県自然誌資料, 12: 21–28.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.